

# つとむ通信



地域力 UP！

1. 個々の知恵やアイデアを汲み上げて
2. 地域の特性を生かして
3. 心と心が響きあう安心の社会を

富津市議会議員 渡辺つとむ後援会事務所 千葉県富津市千種新田375-5  
TEL0439-65-0526 FAX0439-65-0683  
e-mail [tsutomu364@rondo.plala.or.jp](mailto:tsutomu364@rondo.plala.or.jp) 政策討議資料

## No.21 平成29年 議会報告



ふるさと富津の山々にも秋の気配が感じられるようになりました。みなさま元気にお過ごしでしょうか。富津市議会議員 渡辺つとむです。今回は平成29年(2017年)の9月議会までの活動について報告をさせていただきます。富津の市議会ではどのような議論が行われているのか？その様子を少しでもご理解いただくための個人としての議会だよりです。これからも「市民に顔の見える議員でありたい。」この姿勢を貫きます。

### ✚ 29年度予算について

平成29年度の予算のポイントについてお知らせします。

#### ・地域づくりネットワーク事業 60万円

まちの活性化を失わないためにはそれぞれの地域での市民の活動が欠かせません。そこで市民活動についての相談窓口を一本化するため新たに「市民活動推進室」を設置し、各団体や地域の自治会・企業とのつなぎ役として連携を促進して行きます。

#### ☆ つとむの視点

まちの活性化には市民の参画が必要不可欠です。とはいえ単に要望を受ける窓口としてではなく、課題に対して市民と行政・民間企業がともに協議しながら解決していくことがこれからのまちづくりには重要です。その具体的な橋渡しになるような組織運営が行政には求められます。

#### ・バスストップ整備事業 3億 9,538 万円

富津中央インターチェンジ付近に建設中のバスストップは平成30年度中の供用開始が予定されています。それに合わせて周辺の市道整備も行われます。

#### ☆ つとむの視点

天羽地区をはじめとする市の南部地域の雇用確保や都心部へのアクセスの向上のためのバスストップ建設は、市民の皆さんや議会でも多くの議論があったところですが、30年度に完成する見通しですが、単にバスストップを作ったからこれで市南部の活性化が終了というわけにはまいりません。広大な砂利採取跡地を含む浅間山地区をこれからどんな場所にしていくのか？どんな街をイメージするのか？そのようなランドデザインを早急に検討することが必要です。浅間山周辺の地権者が集まる協議会の中でも、行政が率先して「まちのデザイン」を発信していく必要があると主張しています。

#### ・公共交通計画策定事業 1,585 万円

市内の交通の主な手段は、年々自家用車の比重が高まりつつあります。しかし自動車を運転しない児童・生徒やお年寄りの交通手段はJR内房線のダイヤ改定なども関係して少しずつ選択肢が狭められています。市内の交通弱者の生活の利便性の維持や向上を目的とした「公共交通計画」を策定することにより、国の政策と連動した持続可能な地域交通網を目的としています。

#### ☆ つとむの視点

市は市内自治会の区長会長や周辺の交通事業者、学識経験者、大学教授などによる「公共交通会議」を開催し検討に入っています。会議の中でも議論されていますが、キーワードは「持続可能」ということ。往々にして個別の地域・地区の救済のためだけに交通手段を設定しがちですが、全国各所で「デマンド交通」や「循環バス」の採算性に頭を抱える自治体が増えています。「あればいいな～」ではなく本当に多くの市民が継続して利用できるような交通網の確立が求められていると思います。

#### ・天羽中学校校舎改築事業 5,940 万円

老朽化した天羽中学校を新しくするための基本設計と実施設計の費用です。今年度中にどんな学校にするかの検討が行われ、来年度(30年4月)には、既存校舎解体工事が行われる計画です。今回の改築は市教育部によると、天羽東中との合併の如何に関わらず老朽化の解消のための計画とのこと。今年度末までには、基本設計と実施設計を終え32年度より使用できるように建設を進める方針です。今回の予算はその設計管理料の費用です。

#### ☆ つとむの視点

地方公共団体がいわゆるハコモノを作るには、そこでどんなまちづくりをするか。教育施設であれば児童・生徒たちにどんな教育を受けさせたいか。どんな生徒になってもらいたいかをしっかり見据えたうえで、建物のコンセプト(基本概念)を決めてから事業を始めるべきだと主張しています。高度経済成長時の生徒数がどんどん増える時代には、ある程度画一的でも経済性や効率性を優先する学校建築が主流でした。しかし最近の他市等の傾向を見ると、生徒数の増減にフレキシブルに対応可能な建築であるとか、生徒の個性や、集団の中での問題解決能力を高める教育に対応するものや、地域住民とコミュニケーションを取りやすくする建築など様々な手法が取り入れられています。天羽中学校についても、せっかく新築するのであれば画一的な校舎ではなく、地域にマッチした、住民からも愛される学校建築であるべきだと主張しています。またこの件に関連して富津市議会ではおそらく初めての議会主催の講演会を11月25日(土)14:00～予定しています。市民の皆さんにも公開します。ぜひご参加ください。



老朽化で建て替えの計画が進む天羽中学校

## ✚ 一般質問報告

渡辺つとむは3月、6月、9月と一般質問の壇上に立ちました。その内容の要旨を報告いたします。

### ・3月議会代表質問

**問** 市長は「富津市にはほかの自治体に負けない底力がある。知ってほしい魅力にあふれている。」と施政方針で述べているが、具体的にはどのようなものか。

**市長** 第一に住民力、住民の連携による活動が盛んなこと。第二に地場産業の力。長い海岸線とその背後の豊かな田園地帯。そこで育まれる素晴らしい農水産物があり今後は富津ブランドの確立によりますます発展する可能性を秘めている。第三は雇用力。利便性の高い立地から多くの企業が進出し3,000人の常時雇用の創出につながっている。

**問** 商工業者の経営安定や事業従事者の所得向上は地域の活性化に大きく寄与するものだ。それを高めるために行政が取り組むべきことはどのようなものか。

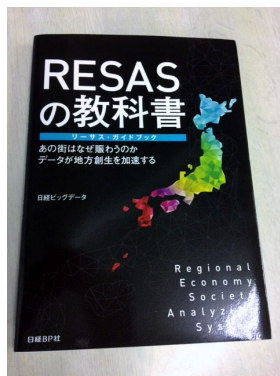
**建設経済部長** 新たな事業の創業者支援策として、運転資金や設備資金の貸付融資制度や利子補給制度を創設し、創業支援セミナーによる起業喚起も図っていく。

**問** 今や日本中の自治体が一斉に同じように観光資源開発や一次産業の六次産業化などの取り組みを国からの補助金の縛りを受けながら続けている。地域経済の大きな割合を占める主力産業分野で一層有効な取り組みをするには、新しい可能性を秘めた若い人たちの起業支援や、ビッグデータを利用した市場の把握などが有効だ。

RESAS(リーサス)地域経済分析システムというものがある。内閣府が提供するビッグデ

ータのプラットフォームでこれを活用すべきだと思うがいかがか。

**建設経済部長** 議員おっしゃる通りRESASについては、地域経済に関するデータを集めわかりやすく見える化するシステムだと認識している。これを使った自治体の取り組み事例も紹介されていることから、政策立案に向けた利用の促進と実践的な活用方法について検討していく。



リーサス(地域経済分析システム)は内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が提供している。ビッグデータを活用し経験や勘だけではなく、可視化されたデータをもとにした政策立案が可能となる。

**問** 今般、富津市小中学校再配置計画が公表されたが、統合を進めるに至る経緯は。

**教育長** 小学校では児童数の減少により市内の二校で、複数の学年が一つのクラスで学習する「複式学級」が開設されている。平成30年には学年ゼロ人や学年3~4人の学校が予測される。この複式学級を解消していくことが必要であると考えている。

中学校では生徒数の減少により部活動の選択肢が限られたり、9年間通してクラス替えないことによる多様な体験や交友関係が制限される影響などを考慮し教育環境の改善が必要だと考え計画策定をしたところだ。

**問** 学校統廃合の地域説明会の中で、市民から「地域のコミュニティが失われる」という懸念が多く出された。せめて方向性だけでも地域住民に示すべきだと思うが。

**市長** 空きの学校施設が出る場合には、民間への譲渡や賃貸なども考えなければいけ

ない。コミュニティの一つの活動の場であるので施設の有効活用によって有効に使えればと考えている。

#### ・6月議会一般質問

**問** 今年3月、JRはダイヤ改正を行った。富津市管内の内房線は、上り下りとも2本ずつの減便となった。沿線自治体や県とJRとの連携のなさも問題だと考える。JRは公表していないので独自の調査だが、君津～安房鴨川間は赤字路線。内房線全体でも赤字。かろうじて蘇我～君津間が黒字という状況だと推察される。ただ単に「運行便数を増やせ」というだけでは事態の解決にはならない。今後このJRとどのように付き合っていくのか？現在、市では公共交通網の計画策定を進めているがそれも含めて所見を伺う。



市内6駅の乗降客数は1日約8,000人

**総務部長** JR内房線市内6駅の乗降客数は1日当たり約8,000人で市の基幹公共交通だ。去る3月のダイヤ改正については、千葉県と館山市など内房線沿線自治体とともに、日中時間の千葉～館山間の直通列車廃止などについて再検討を強く要望したとこ

ろだ。今後もダイヤ改正について、事前の説明、情報提供や地域の意見を反映する仕組みの創設を検討するよう求めていく。

#### 活動報告



去る11月22日からの台風により富津市でも高潮による被害が発生しました。被害に合われた皆さんには心よりお見舞い申し上げます。



岩手県紫波町のまちづくりプロジェクトを視察してきました。「稲ぐインフラ」を実践している自治体と民間の連携手法に大きな可能性を感じました。

#### 講演会開催告知

平成29年11月25日(土) 14:00～

富津市役所1階大会議室にて

「みんなで考えるこれからの学校や地域公共施設のあり方」

講師 千葉大学 大学院工学研究科教授

**柳澤 要 教授**

☆ これからの地域と学校のあり方についてどう向き合うかを考える講演会です。公共施設の大部分を占める小中学校をはじめとする教育施設の老朽化に対して、複合化・併設化などの取り組みを紹介します。入場無料。ふるってご参加ください。

#### 渡辺つとむプロフィール

昭和36年4月25日 富津市千種新田生れ

県立木更津高校卒

立教大学経済学部卒(弁論部出身)

工学院大学専門学校建築科研究科卒

藤和不動産(株)財務部に勤務後

現在家業(有)渡辺サッシ代表取締役社長



教育福祉常任委員会委員長  
富津市子ども子育て会議会長  
富津市介護保険運営協議会会長  
富津市社会福祉協会理事  
富津市バドミントン協会会長  
富津市国際交流協会副会長  
富津市スポーツ推進委員